1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4070100971
法人名	学校法人 井上学園
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地 (電話番号)	北九州市門司区稲積一丁目12-27 (電話) 093-381-3188
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年12月10日

【情報提供票より】(平成20年11月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 16日
ユニット数	1 ユニット
職員数	12 人
利用定員数計	9 人
常勤	6人, 非常勤 6人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物形態	併設 ☒ 単独 ☐	☒ 新築 ☐ 改築
建物構造	木造軸組 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	☒ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	☒ 有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	☒ 有 ☐ 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年11月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	78 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	JR九州病院、石本外科・胃腸科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幼稚園を経営している学校法人が「幼老共生の地域づくり」を目指し開設したホームである。地域での永年に亘る幼稚園経営の中から得られた信頼は地域住民とのつながりにおいても心強いものがある。職員一人ひとりがホームの理念をよく理解し、認知症高齢者の尊厳を守り自立を支援しており、年々心身機能が低下していく利用者に対して職員間で日々話し合い、その人らしく家族の一員として安心した生活が継続できるよう配慮し、工夫した介護を丁寧に取り組んでいる。また、管理者は認知症サポーターの講師として、地域へ認知症高齢者の理解と啓発に取り組んでおり、益々の発展が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価での改善点であった「鍵をかけないケアの実践」については、安全を第一優先にし、家族の同意の下、終日の施錠をホームの方針としているが、昼間は施錠せずに安全な支援ができるような工夫が望まれる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価を受けるにあたり、職員会議で話し合い、その意義を全職員で確認しているが、自己評価の記載は主に管理者と施設長とでまとめあげており、全ての項目を全職員で検討するまでには至っていない。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者代表、家族代表、協力医、民生委員、町内会長、学園理事長、理事、管理者、地域包括支援センター職員等の出席を得て、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や行事、運営状況、外部評価への取り組み状況の報告をし、情報交換や話し合いを行っている。出された意見はサービス向上に活かしている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 利用者のより良い生活を支えるためには、家族の意見・苦情がホーム運営に大きな力を持っていると家族に常々伝えており、気軽に意見を言って貰える雰囲気作りを心がけている。また、毎月の請求書送付時にも意見や苦情の用紙を同封し、あれば記入し届けてもらい、全職員で検討し運営に反映している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 藤松フェスタ運営に職員も協力し、利用者も参加している。また、藤松小運動会には利用者も招かれ、参加している。ホーム前ではウォーキングや犬の散歩等地域の方との触れ合いがあり気軽に挨拶を交わしたり、毎週日曜日には施設駐車場にロバのバン屋さんが開き、買物を通じて近所の方々と交流している。理事長が運営する幼稚園の園児と親交があり、ホームの菜園でサツマイモや大根の収穫を共に喜び、元気をもらっている。また、管理者は認知症サポーターの講師として、地域へ認知症の理解・啓発に努めている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「高齢者の尊厳を守り、自立を支援する。一人ひとりを大切にする介護。生きる意欲、安らぎ、楽しみを支える介護の実践。地域社会に共感と互助の和を広げる」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕のミーティング時に理念について触れ、日々のケアの中で常に意識付けをするように取り組み、月1回の職員会議での個々の状況報告、話し合いの際に理念の実践ができていないか再確認している。また、管理者は認知症サポーターの講師として、地域へ認知症の啓発・理解のための取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	藤松フェスタ運営に職員も協力し、利用者も参加している。また、藤松小運動会には利用者も招かれ、参加している。ホーム前ではウォーキングや犬の散歩等地域の方との触れ合いがあり気軽に挨拶を交わしたり、毎週日曜日には施設駐車場にロボのパン屋さんが店を開き、買物を通じて近所の方々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価を受けるにあたり、職員会議で話し合い、その意義を全職員で確認している。自己評価の記載は主に管理者と施設長とでまとめあげており、全ての項目を全職員で検討するまでには至っていない。	○	評価は一連の過程を職員全員で取り組む事で、職員の意識の統一、ケアの振り返りや見直し等が可能となります。年1回の評価を計画的・継続的に取り組み、質の確保に最大限に活かしていただくことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族代表、協力医、民生委員、町内会長、学園理事長、理事、管理者、地域包括支援センター職員等の出席を得て、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や行事、運営状況、評価へ取り組み状況の報告をし、情報交換や話し合いを行ない、出された意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修会へ参加したり、グループホーム協議会主催の市とグループホーム相互の意見交換会に出席して、現場の状況や市への要望等を伝え、サービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員には研修会の参加や伝達講習にて学習の機会を作っている。利用者家族には、利用契約時や来訪の折に、家屋・財産等の事で制度の活用を促すよう常に話をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪した家族に利用者の暮らしぶりや健康状態、預かり金の報告、職員の異動等について積極的に報告している。月1回発行している「ひまわり便り」にも暮らしぶりや職員の異動を記載し、個々の利用者の様子についてのコメントを同封して郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のより良い生活を支えるためには、家族の意見・苦情がホーム運営に大きな力を持っていると、家族に常々伝えており、気軽に意見を言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。また、請求書送付時に意見や苦情の用紙を同封し、あれば記入し届けてもらい、全職員で検討し、運営に反映している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	休暇取得や会議や研修参加のための時間外手当の支給等、職員が働きやすい環境作りに配慮し、離職を抑える努力をしている。代わる場合はダメージを防ぐ配慮として、利用者への説明、挨拶をし納得いただくようにしている。新しい職員へはベテラン職員を付け、夜勤時は2名体制とし指導している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはなく、介護の心・やる気を重視し採用している。運営者は職員が生き生きと勤務し、働きやすい職場を作ることを目指しており、余暇活動や自己の都合の為に休暇取得の便宜を図り、社会参加・自己実現の権利が保証されるよう配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	市主催の人権研修に参加、受講者による伝達講習をし、職員全員で人権や高齢者の尊厳を守る介護について啓発・学習の機会を持ち、日々のケアの中での実践に努めている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市・県・グループホーム協議会等で実施される研修には段階に応じ参加している。受講者は伝達講習を行い研修内容の共有をはかっている。事業所内研修は、月1回開催される職員会議の中で実施され、実技指導は管理者が行い、働きながらトレーニングしていくことを進めているが、研修の年間計画は無い。	○	常に外部研修等の参加を行っており、職員にも研修参加を勧めている。参加できなかった職員のため報告や話し合いを持っているが、研修の年間計画がない。今後は段階に応じた年間計画や話し合いの記録を残すことが望まれる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に所属し、協議会の研修・意見交換会や相互訪問を通して交流を深め、お互いに情報交換を行なって質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に、来訪を何回かしてもらい、他の利用者とお茶を飲んでもらう等同じ時間を過ごしてもらう中で、少しでも馴染んでもらえるよう工夫している。また、必要に応じ、管理者が自宅訪問し、本人の暮らしぶり等の把握に努め、スムーズな利用開始となるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜の切り方、酔いの物や煮物の味付けを教わったり、一緒に食事作りをする中で、職員は教わる場面は多く、お互いに「ありがとう」と言える関係にある。また、利用者からさりげなく体調を気遣う言葉かけをされたり、利用者と共に支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者の言葉や行動・様子から思いを汲み取るように努めている。意向を表すことが困難な方には、その方の日頃のケアの場面から表情やバイタルを確認し、家族からの情報も参考にするなど推察し、思いを受け取れるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	良い暮らしとは何かを念頭にアセスメントを実施し、利用者の意向を把握するよう努めている。ケアの方向性について、月1回行なわれる職員会議で職員間の意見を出し合い検討を図り、介護計画の作成に努めている。家族には説明と同意を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年毎に介護計画の見直しを行っている。ケアの実施状況や効果、利用者の心身の状況などは月1回行なわれる職員会議時において個別に検討が行なわれている。状態が変化した際は半年に限らずその都度、利用者や家族の意向を踏まえ、必要な関係者と話し合い、現状に即した計画の作成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院に受診する際同行したり、入院された方に対し家族に出来る事はお願いしながらも、家族に代わって洗濯物などの身の回りの支援をしている。また、早期退院が実現できるよう病院のソーシャルワーカーと連携を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに入居する際、ホームと連携している医療機関に変わることに関しては利用者・家族に説明し同意を得ている。月1回往診があり利用者全員が健康チェックを受けている。入居前からのかかりつけ医を希望される利用者には通院時の同行を行い、時には家族に対応をお願いして、かかりつけ医の医療が継続して受けられるようにしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際は、利用者・家族・医師・ホームで今後の方針を一緒に話し合うようにしている。方針は関係者間で共有し、ホームとして、医療との連携を図りながらできる範囲内で対応するように努める意向である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の暮らしの中で、プライドを傷つけないような声かけや態度など個人の尊厳に十分配慮し、管理者は、常にケアの中で言葉掛け等に気になることがあれば、その場で指導している。利用者の記録物などは職員のみが観れる場所に管理している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れがあるが、職員は洗濯物を一緒にたたんだり、夜眠れぬ利用者の側に寄り添いお茶と一緒に飲んで気持ち身を近に感じるよう接するなど、理念を確認しながら強制することなく一人ひとりのペースに合わせた支援に努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ・味付け・食べた後の片付けなどの手伝いができる利用者は限られているが、力の発揮につながるよう一緒に協働している。職員も一緒に食卓につき、必要な介助を行いながら、楽しい雰囲気を作るようにしている。献立は利用者の希望も取り入れ、ホームの畑で収穫された野菜を利用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回13:30～15:00の間を入浴の時間としているが、その日、その時の状況により入りたい希望があれば沿うように努めている。また、失禁時の清潔保持や皮膚疾患のある方は毎日入浴支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	中庭の草花の手入れをしたり、畑の枝豆を収穫したり、自分の部屋を掃除する、食事の後片付けをするなど利用者それぞれの能力に応じて役割や力を活かした支援を図っている。また、職員も参加したトランプ遊びが流行っており楽しみごとの支援につながっている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調に応じて、近隣の公園に散歩や職員と一緒に買物・おやつを食べにレストランに外出に行くなど閉じこもることがないように定期的に戸外へ出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不審者等に対する防犯の視点、転倒等の事故の視点等、リスク管理の観点から家族の同意を得た上で終日施錠している。	○	鍵をかけることで利用者にもたらすデメリットや目を離さないケア、日中鍵をかけないで支援していくためにはどうしたら良いかについて職員間で話し合いをされることを期待したい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回以上、消防署の指導を受けたり、ホーム単独で火災・地震の避難訓練、避難経路の確認を昼間・夜間を想定して利用者と一緒に取組んでいる。しかし、地域に対し、災害時の協力依頼はまだ行われていない。	○	災害発生時に多くの人力が必要になることが想定されるので、運営推進会議に参加されている方や、消防団、地域の方にも応援体制等の協力が得られるように取り組まれることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に1日ごとの食事摂取量・水分補給量・摂取量をチェックし、職員間で情報を共有している。持病で高血圧の方には塩分を控えた食事の提供や、好まないメニューの際は別メニューを提供するなど個別に対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング空間は天井が高く開放的である。天窓から直射日光が当たらないよう傘を取りつけ、柔らかな光が差し込むよう工夫されている。リビングや廊下の各所から眺められる中庭には季節の草木・花を眺めることができ季節を楽しむことができる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、利用者それぞれが使い慣れたタンス・思い出の品(自分で描いた絵など)・写真・仏壇等を持ち込まれ、各々が居心地良く過ごせる居室になっている。</p>		